

北海道観光機構によるリハビリ・レスパイト・ケアツーリズム推進事業

木下 藤寿^{1†}、西崎徹²、野平正則³、柳屋みゆき³、河野梨香⁴

概要：北海道では、観光振興の新たな方向性として「健康増進型旅行（リハビリ・レスパイト・ケアツーリズム）」の導入を進めており、その基盤づくりとしての受入体制と人材育成を目的とした研修会事業を行った。また、リハビリとレスパイトそれぞれに該当する市民向け1泊2日のモニターツアーを2か所で実施し、ツアー前・中・後に活動量やメンタル等に関するエビデンス検証を行った。

結果として、研修会においては、健康増進型旅行の重要性や今後の方向性などが理解され、また、モニターツアーにおいては、ストレス軽減やリフレッシュなどの効果が得られた。

成果報告会では、観光や健康に関するウェルネス経済の現状と将来性、各地での研修会の内容、モニターツアーの結果が報告され、参加された事業者や専門家により活発な意見交換が行われた。今後は旅とヘルスケアに関する北海道の先進モデルとして、商品の開発と実践が期待される。

キーワード：リハビリ・レスパイト・ケアツーリズム、ヘルスツーリズム、旅

Hokkaido Tourism Organization's Rehabilitation, Respite, and Care Tourism Promotion Project

Fujihisa Kinoshita, Toru Nishizaki, Masanori Nohira, Miyuki Yanagiya and Rika Kawano

In Hokkaido, we are promoting the introduction of "health-promoting travel (rehabilitation, respite care-tourism)" as a new direction for tourism promotion, and we have conducted a training session project aimed at creating an acceptance system and human resource development as a foundation for this. In addition, a two-day, one-night, two-day monitor tour for citizens corresponding to rehabilitation and respite was conducted at two locations, and evidence was verified before, during, and after the tour, regarding activity volume and mental health. As a result, the importance of health-promoting travel and future directions were understood at the training session, and the monitor tour had effects such as stress reduction and refreshment. During the results report session, participants discussed the wellness economy in tourism and health, reviewed regional training content and monitored tour outcomes, and exchanged views with businesses and experts. Hokkaido's leading approach to travel and healthcare is anticipated to be developed further and implemented in the future.

Keyword: Rehabilitation, Respite Care Tourism, Health Tourism, Tourism

1. はじめに

Update: 2026/01/14

国土交通省地方運輸局の報告によると¹⁾ コロナ禍以降、北海道への観光客は順調に回復しているが、将来的には、日本社会全体で急速に進行する人口減少・少子高齢化は、中長期的に国内旅行市場の縮小となることが予想されている。また、高齢者層の旅行意欲は高いものの、健康面や移動手段の制約があるため、バリアフリー対応や医療連携などの支援体制が求められている。このような状況においては、国内観光の振興には、単なる旅行者数の回復にとどまらず、国内交流の拡大や観光需要の平準化、シニア層・リピーター層をターゲットとした旅行商品の開発が不可欠であり、デジタル技術の活用や働き方改革の進展を背景に、平日旅行の推進など、新しい旅行スタイルの普及・確立も重要であるとしている。

加えて、高齢化による課題の一つとして、介護が看護に携わる家族や専門業種（病院や施設などに従事する方）に過度な心身の負担がかかっていることから、何かしらその手当が必要とされている。さらには、経済産業省が推進する健康経営の取り組みにおいても、健康づくりやチームビルディングが旅先での実践が有効であること²⁾、厚生労働省においては、宿泊型新保健指導として、旅を通じた健康づくりの活用を推進していること³⁾、Global Wellness economy 2023においては世界のウェルネス経済は、全体で6.6兆ドルであり2020年より1.9兆ドル増加している⁴⁾ ことなど、このように、旅は観光振興と健康への寄与など多くのメリットがあることから、健康を含めた多様な分野とのマッチングが新たなマーケットとして期待できる。

¹ 一般社団法人日本ヘルスツーリズム学会 ³株式会社 JTB 北海道事業部

[†] kinofuji2000@outlook.jp

⁴ 太成学院大学人間科学部

² 特定非営利活動法人日本ヘルスツーリズム振興機構

2. 目的

(1) 研修会開催

新たな観光需要が期待されている「健康増進型旅行」の基盤づくりとして、レスパイトとリハビリテーションの健康課題に着目し、旅と健康が融合したケアツーリズムの普及と展開を目的として、道内4か所で研修会を行った。

なお、ここではレスパイトを、「介護者が一時的に介護から離れ、心身の休息を取るための支援サービス」、リハビリテーションを「身体的、精神的、社会的に最も適した生活水準の達成を可能とする過程」と定義する。

(2) モニターツアー開催

レスパイトとリハビリテーションに該当する一般市民を対象にした1泊2日のケアツーリズムのモニターツアーを道内2ヶ所において実施し、ツアー前・中・後に活動量やストレス、血圧、自律神経機能などの測定を行い、ツアーのプログラムや実施体制、健康効果などについて調査することを目的とする。

3. 方法

(1) 「健康増進型旅行」研修会開催

表1に示す通り、道内4ヶ所（阿寒、帯広、登別、富良野）にてそれぞれ2日間の研修会を実施した。

表1. 「健康増進型旅行」研修会の場所と日程

日程	場所	主な対象
10/13	阿寒湖まりむ館	旅行業経験あり
10/14		
10/16	帯広経済センタービル	旅行業経験あり
10/17		
10/23	登別市民センターヌプル	介護経験あり 旅行業経験あり
10/24		
10/28	コンセルジュフラノ 新富良野プリンスホテル	介護経験あり
10/29		

研修会の対象と内容は、旅行や介護およびそれぞれ関連する事業や個人にとし、地域の実情や特長にあわせた研修内容とした。

阿寒地区と帯広地区では、主な対象を旅行業に、登別地区では、介護と旅行業、富良野地区では、介護を主な対象とした。

表2は、それぞれの地域で実施した研修会の内容で

ある。研修会は、多様な専門講師陣による、座学と実技を行った。座学では、専門知識と事例や実績を含んだ内容で、実技は、車いすを使った体験や地域資源の特長を活用して楽しい実技など、多岐にわたる内容であった。

表2. 「健康増進型旅行」研修会の内容

地区	日程	主な内容
阿寒	1日	<ul style="list-style-type: none"> ケア（ヘルスツーリズム概論） リハビリツーリズムの意義と支援対象理解 認知症・身体的特徴と支援ポイント 移動・移乗支援技術の基礎
	2日	<ul style="list-style-type: none"> 福祉用具の理解と体験 ケア対象者を想定したプログラム設計 地域連携・緊急対応フローの作成ワーク
帯広	1日	<ul style="list-style-type: none"> ケア（ヘルス）ツーリズム概論 介護の基礎と支援対象の理解 観光の基本と地域資源の魅力 接遇と案内技術の基礎
	2日	<ul style="list-style-type: none"> 移動・移乗支援技術の基礎 地域施設でのフィールド体験 気づきの共有と今後の活動検討
登別	1日	<ul style="list-style-type: none"> ケア（ヘルス）ツーリズム概論 リハビリツーリズムの基本概念と国内事例 要介護者の旅における企画実施のポイント 福祉用具の理解と体験
	2日	<ul style="list-style-type: none"> バリアフリールート点検と行動支援ロールプレイ 地域資源を活かした体験造成（リハビリ的要素） 同行者向けレスパイトツーリズムの設計
富良野	1日	<ul style="list-style-type: none"> ケア（ヘルス）ツーリズム概論 リハビリツーリズムの意義と旅行の企画実施のポイント 旅行業務基礎（移動・宿泊・体験手配の流れ） 観光案内の基本と地域資源の魅力伝達
	2日	<ul style="list-style-type: none"> リハビリ・ケアツーリズムの現場における接遇研修 フィールド体験同行練習・ツアーシミュレーション 旅先での緊急対応フロー作成

(2) ケアツーリズムのモニターツアー

表3に帯広の、表4に登別のそれぞれレスパイトおよびリハビリテーション向けケアツーリズム試行の行程

と内容を示す。参加者にはあらかじめモニターツアーの目的、内容を説明し、同意を得られた方に参加してもらった。レスパイト・リハビリテーションのモニターツアーは、集合場所・時間は同じとし、ツアー内容は、一部行程が同じであったり別であったりと、参加者にあわせてプログラムとした。同行スタッフもそれぞれに対応するような配置とした。

なお、同行スタッフは、看護師、理学療法士、健康運動指導士などのメディカルスタッフおよび旅行会社とヘルスツーリズム専門のスタッフとした。

表3. レスパイトモニターツアー行程

日程	場所	主な行程
10/18 (土)	帯広	集合 8:00=貸切バス移動 昼食(麦音)=体験(山岸牧場)=宿泊(十勝温泉)
10/19 (日)		6:30 体験(早朝運動) 朝食=体験(真鍋庭園)=体験(帯広競馬場)=昼食=移動・解散
10/21 (火)	登別	集合 8:00=貸切バス移動休憩(サーモンパーク) 昼食(白老)=体験(登別温泉・ウォーク)=宿泊(登別温泉)
10/22 (水)		体験:6:30(早朝運動) 朝食=体験(ホテルでの運動)=観光(登別温泉) 移動・測定(昼食)=移動・解散

表4. リハビリテーションモニターツアー行程

日程	場所	主な行程
10/18 (土)	帯広	集合 8:00=貸切バス移動 昼食・体験(六花の森)=宿泊(十勝温泉)
10/19 (日)		6:30 体験(早朝運動) 朝食=体験(真鍋庭園)=体験(帯広競馬場)=昼食=移動・解散
10/21 (火)	登別	集合 8:00=貸切バス移動休憩(サーモンパーク) 昼食(白老)=観光(水族館)=宿泊(登別温泉)
10/22 (水)		体験:6:30(早朝運動) 朝食=体験(ホテルでの運動)=観光(登別温泉) 移動・測定(昼食)=移動・解散

(3) 報告会

表5は、4地区で行った研修会の報告会を実施した一覧であり、最終まとめを札幌市内にて行った。

なお、最終報告会では、一般社団法人日本ヘルスツーリズム学会との共催によるヘルスツーリズム学会特別研究会

を開催した。

表5. 報告会開催日程一覧

日程	開催場所
12/1 (月)	阿寒:阿寒まりむ館
12/2 (火)	帯広:帯広経済センタービル
12/3 (水)	富良野:コンセルジュプラノ
12/4 (木)	登別:登別市民センターヌブル
12/6 (土)	札幌:札幌商工会議所

4. モニターツアーの結果

(1) 参加者のプロフィール

表6に帯広エリア、表7に登別エリアに参加したレスパイト、リハビリテーション、同行スタッフのプロフィールを示す。帯広は計12名、登別は計12名であった。

表6. モニターツアー参加者のプロフィール(帯広)

分類	男性	女性	年齢	平均年齢	身長	体重
リハビリ	1	1	41 ~ 95	68 ± 38	157 ± 13	80 ± 49
レスパイト	0	3	34 ~ 78	62 ± 24	154 ± 4	63 ± 7
スタッフ	5	2	40 ~ 66	52 ± 11	169 ± 14	72 ± 14
計	6	6				

表7. モニターツアー参加者のプロフィール(登別)

分類	男性	女性	年齢	平均年齢	身長	体重
リハビリ	0	2	34 ~ 74	54 ± 28	156 ± 4	57 ± 0
レスパイト	1	2	55 ~ 77	70 ± 13	163 ± 12	58 ± 4
スタッフ	5	2	40 ~ 66	52 ± 10	167 ± 12	72 ± 12
計	6	6				

(2) 参加者の血圧、脈拍、体温

表8に帯広、表9に登別のモニターツアーに参加した対象者の参加前の安静時血圧、脈拍、体温を示す。

表8. 参加者の血圧、脈拍、体温(帯広)

分類	男性	女性	年齢	SBP	DBP	HR	体温
リハビリ	1	1	41 ~ 95	165 ± 37	94 ± 3	89 ± 8	36.3 ± 0.5
レスパイト	0	3	34 ~ 78	135 ± 13	86 ± 10	91 ± 17	36.2 ± 0.2
スタッフ	5	2	40 ~ 66	114 ± 20	73 ± 27	76 ± 10	35.8 ± 0.4
計	6	6					

表9. 参加者の血圧、脈拍、体温(登別)

分類	男性	女性	年齢	SBP	DBP	HR	体温
リハビリ	0	2	34 ~ 74	137 ± 32	84 ± 13	79 ± 22	36.3 ± 0.4
レスパイト	1	2	55 ~ 77	153 ± 15	80 ± 15	77 ± 11	36.2 ± 0.3
スタッフ	5	2	40 ~ 66	128 ± 20	89 ± 12	74 ± 8	36.1 ± 0.5
計	6	6					

表8, 9に示す通り、帯広、登別のモニターツアー参加

者は、血圧、脈拍、体温ともに異常がないことを確認し、また、当日の問診表においても、ツアー参加に支障がないことを確認したうえでツアーを催行した。

(3) 調査方法

モニターツアーにおいて旅行前・中・後において健康状態やストレス度、アンケート調査を行った。健康状態に関する調査の概要を図1に示す。

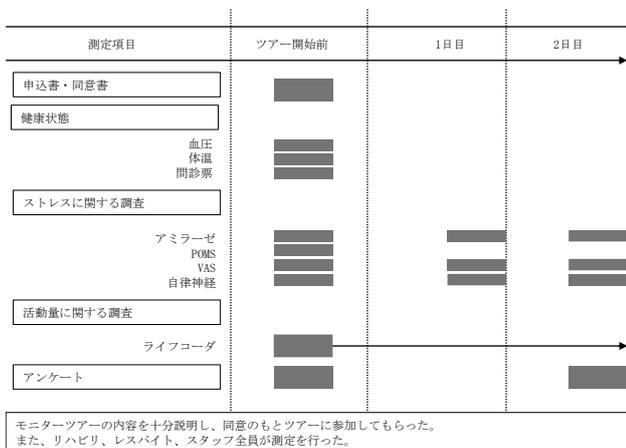


図1. モニターツアーの調査概要

(4) 調査内容

モニターツアーの調査内容は以下の通り。

① 健康状態に関する調査

健康状態に関する調査として、問診票およびアンケート、血圧、脈拍、体温の検査を行った。

② 活動量に関する調査

ツアー中の活動量調査としてスズケン製ライフコーダを活用し、ツアー中の運動量（歩行数、エネルギー）を測定した。

③ 精神ストレスに関する調査

精神ストレスに関する調査を以下の通り行った。

- 1) 唾液アミラーゼ（ニプロ社製）を用いて、ツアー前、1日目終了時、2日目終了時に測定
- 2) 気分の検査（POMS）をツアー前に実施
- 3) 気分の検査（VAS: Visual analog scale）をツアー前、1日目終了時、2日目終了時に測定
- 4) 自律神経機能（村田製作所製疲労モニター）をツアー前、1日目終了時、2日目終了時に測定

④ アンケート

ストレス等に関する質問を質問紙票にて実施。ツアー前、ツアー終了時に行った。

⑤ 同意書

ツアー参加、写真活用、個人情報の取り扱いについての同意書を得た。

(5) 活動量

① 歩行数

図2にレスパイト参加者（帯広）の歩行数を示す。1日目が3,287歩、2日目が6,323歩であった。

図3は、リハビリテーション参加者の歩行数である。1日目4,702歩、2日目3,832歩であった。

図4に、レスパイト同行スタッフ、図5にリハビリテーション同行スタッフの歩行数を示す。

レスパイト同行スタッフの歩数は1日目8,113歩、2日目9,778歩であった。リハビリテーション同行スタッフは1日目8,565歩、2日目7,904歩であった。

一般的な健康づくりのための運動量として、概ね8,000歩が目標とされており、65歳以上では6,000歩である。今回、普段から運動量が少ないと思われる参加者の旅先での歩行数がわかり、これらのデータを基にしたプログラム開発に活用できると考える。

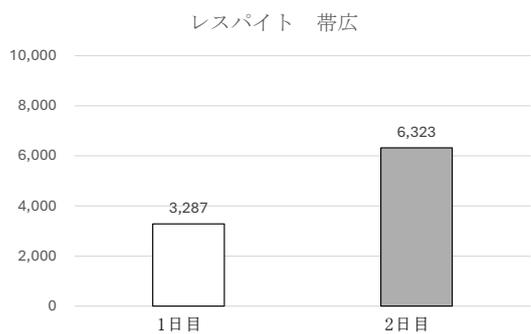


図2. レスパイト参加者の歩行数（帯広）

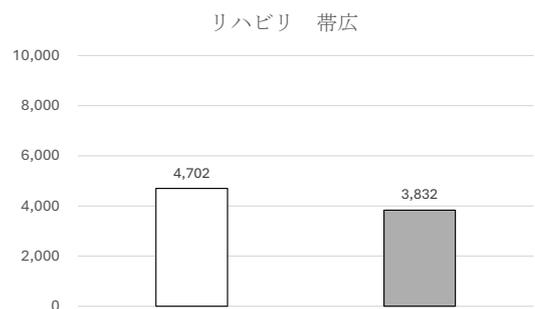


図3. レスパイト参加者の歩行数（帯広）

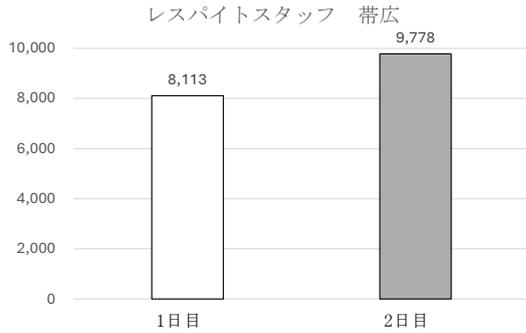


図4. レスパイト同行スタッフの歩行数（帯広）

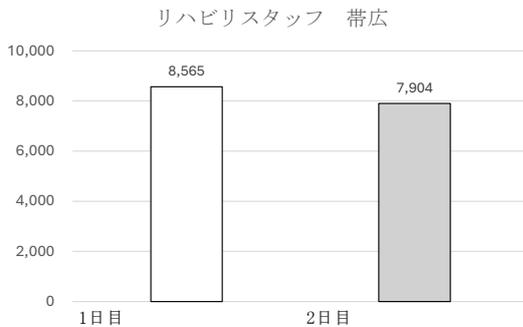


図5. リハビリテーション同行スタッフの歩行数（帯広）

② 歩行距離

表10に、帯広のモニターツアー参加者と同行スタッフの歩行距離の一覧を示す。

レスパイトは、2日間の合計で6.7km（1日目2.2km、2日目4.5km）、リハビリテーションは2日間合計6.0km（1日目3.3km、2日目2.7km）、レスパイト同行スタッフは、合計12.5km（1日目5.8km、2日目6.7km）、リハビリ同行スタッフは、合計11.5km（1日目6.1km、2日目5.4km）であった。

表10. 帯広モニターツアー参加者の歩行距離

対象	1日目(km)	2日目(km)	計(km)
レスパイト	2.2	4.5	6.7
リハビリ	3.3	2.7	6.0
レスパイト同行	5.8	6.7	12.5
リハビリ同行	6.1	5.4	11.5

③ 消費カロリー

表11に、帯広のモニターツアー参加者と同行スタッフの運動に伴う消費カロリーの一覧を示す（基礎代謝量は含まない）。

表11. 帯広モニターツアー参加者の消費カロリー

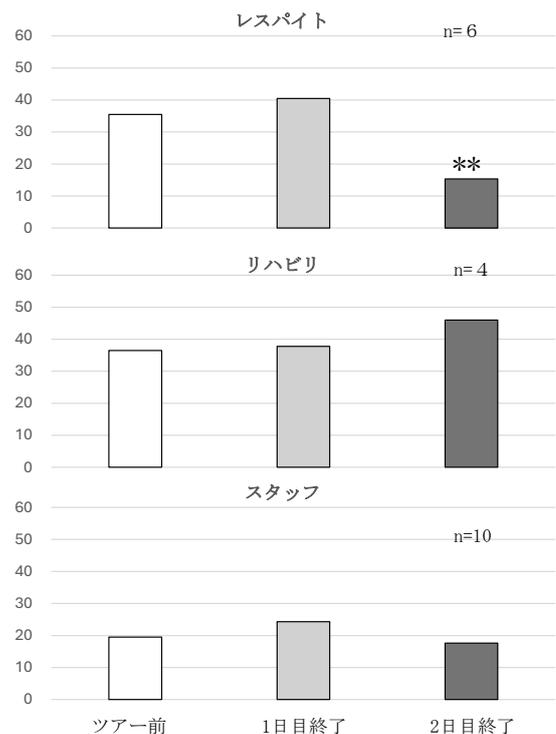
対象	1日目 kcal	2日目 kcal	計 kcal
レスパイト	150	267	417
リハビリ	198	186	384
レスパイト同行	202	232	434
リハビリ同行	271	258	529

レスパイトは、2日間の合計で417kcal（1日目150kcal、2日目267kcal）、リハビリテーションは2日間合計384kcal（1日目198kcal、2日目186kcal）、レスパイト同行スタッフは、合計629kcal（1日目202kcal、2日目232kcal）、リハビリ同行スタッフは、合計529kcal（1日目271kcal、2日目258kcal）であった。

一般的には、1日に300kcalの活動が推奨されており、今回の参加者特性からみても、決して運動量は少なくなく、今後のプログラム開発に活用できる。

④ 唾液中アマラーゼ（精神ストレス度）

図6に、モニターツアー参加者のツアー前・中・後の唾液中アマラーゼ（精神ストレス度）の推移を示す。データは、帯広と登別のデータの合算である。



VS: ツアー前 ** p>0.05 帯広・登別参加者の合算データ

図6. モニターツアー参加者の唾液中アマラーゼ

精神ストレス度を表すとされている唾液中アマラーゼは、レスパイトの参加者（平均）において2日目終了時に有意な低下を示した。なお、唾液中アマラーゼは、30U/ml以上がストレスを感じるとされており、同行スタッフは全行程を通して30U/ml以下であった。旅は、同行者や行先、交通、宿泊など非日常であることが適度な刺激となり、慣れない行程の中において、適度なストレスが帰宅後の効果となることから、今回のデータは今後に活用できる。

⑤ 自律神経機能の推移

図7に、モニターツアー前・中・後の自律神経機能の推移を示す。自律神経機能は、心拍変動から交感神経（緊張状態：主にLF成分）と副交感神経（リラックス状態：主にHF成分）のバランスから計測することができ、一般的にリラックス状態をL/Hで示すことができ、L/Hが低い状態をストレスが低いと定義できる。結果、レスパイトの2日目終了時、リハビリは、1日目終了時、2日目終了時に、旅行開始前より有意な低下が見られた。一方、同行スタッフは、1日目、2日目終了時に有意な増加が見られ、緊張の連続であったことが伺える。

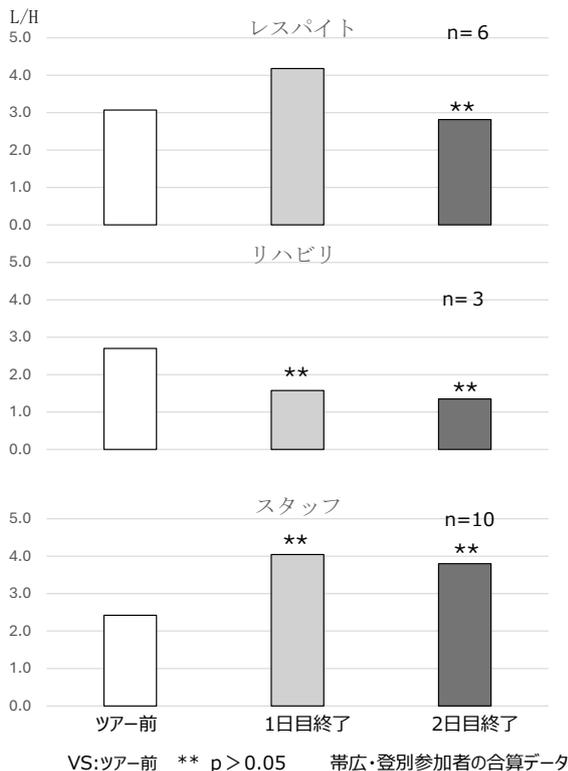


図7. モニターツアー参加者の自律神経機能の推移

⑥ VAS (Visual Analog Scale) 気分の推移

図8に、主観的な気分を表すVAS (Visual Analog Scale) の推移を示す。図9は、VASの調査方法である。VASの評価は、10cmのライン上にその時の気分を任意の場所に記入する。数値のゼロ0に近いほど、気分がいいと定義する。

その結果、レスパイトは、ツアー前に比べ、1日目、2日目終了時に有意な低下を示した。リハビリと同行スタッフは、2日目終了時に気分の改善が見られた。

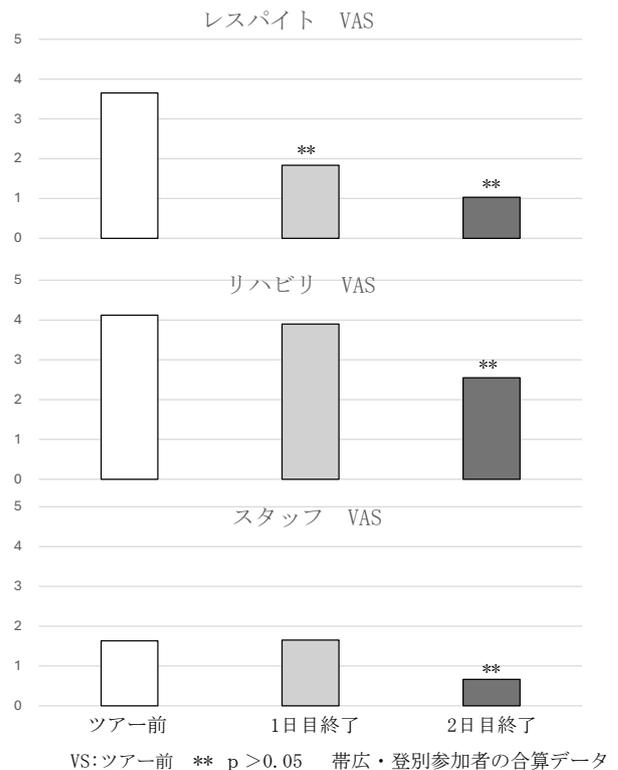


図8. モニターツアー参加者のVASの推移

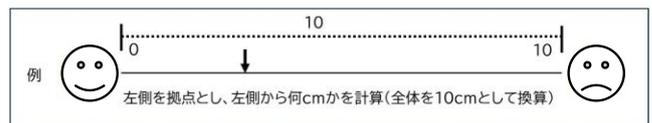


図9. VAS (Visual Analog Scale) の調査方法

⑦ ツアーの期待度と満足度

図10に、モニターツアー参加前の期待度を、図11に、ツアー後の満足度調査の結果を示す。レスパイトは、ツアー前の期待度が93.8%で、ツアー後の満足度は100%であった。リハビリは、期待度が81.3%、満足度は83.3%といずれも期待度に比べ

満足度が高い結果であった。

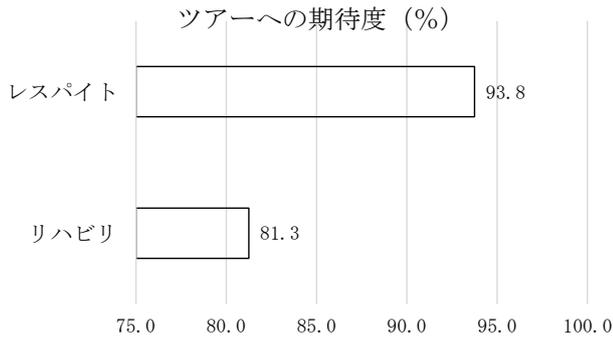


図 1 0. ツアーの期待度

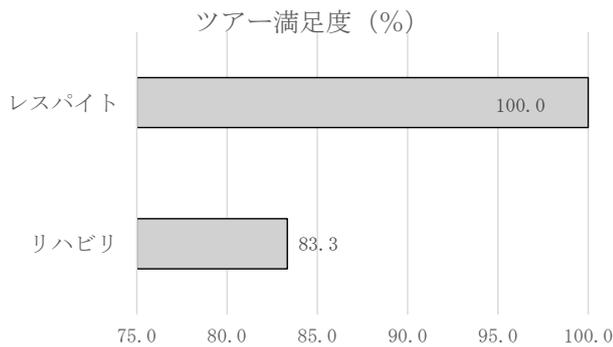


図 1 1. ツアーの満足度

⑧ アンケートの結果

表 1 1 にモニターツアー参加前のアンケート結果を示す。

表 1 1. モニターツアーのアンケート結果 (参加前)

ツアーに期待していること	
レスパイト	<ul style="list-style-type: none"> ・ウォーク ・全体プログラム ・リラックス感 ・現地でのリハビリ
リハビリ	<ul style="list-style-type: none"> ・ウォーク ・普段と異なる環境 ・楽しいこと
参加動機	
レスパイト	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しそう ・お誘い ・魅力的だから
リハビリ	<ul style="list-style-type: none"> ・お誘い ・家族誘い ・楽しそうだから

気になること

レスパイト	<ul style="list-style-type: none"> ・もの忘れ ・腰痛 ・膝関節痛
	<ul style="list-style-type: none"> ・頭重感・足が弱い ・もの忘れ ・言葉の理解が遅い

ストレスの原因

レスパイト	<ul style="list-style-type: none"> ・動けなくなったこと ・お酒が飲めなくなったこと
リハビリ	<ul style="list-style-type: none"> ・対人関係 ・仕事

支えてくれる人

レスパイト	<ul style="list-style-type: none"> ・姉 ・妻 ・主人・友人・娘
リハビリ	<ul style="list-style-type: none"> ・息子 ・母・友人 ・家族・友達

ストレス解消法

レスパイト	<ul style="list-style-type: none"> ・身体を動かす・汗をかく ・畑作業・外の空気を吸う ・ストレッチ ・外出・買物
リハビリ	<ul style="list-style-type: none"> ・植物を見る ・自然風景を見る ・カラオケ・飲食

表 1 2 に、ツアー後のアンケート結果を示す。

表 1 1. モニターツアーのアンケート結果 (参加後)

ツアーに参加して気づいたこと	
レスパイト	<ul style="list-style-type: none"> ・ストレスがかからない生き方に感動した ・心身ともに明るく元気に過ごせて嬉しい ・身体の硬さと運動不足を痛感 ・旅の楽しさ
リハビリ	<ul style="list-style-type: none"> ・森林浴で癒された ・自然の中で上をみて首が動くようになった ・外出することの大切さ ・普段と違うことをすることの大切さ ・旅行中の景色や体験でストレスが軽減した
継続しようと思ったこと	
レスパイト	<ul style="list-style-type: none"> ・運動 ・ウォーキングと筋トレ

リハビリ	<ul style="list-style-type: none"> ・外の空気を吸う ・外出する ・散歩
------	--

実践しようと思ったこと

レスパイト	<ul style="list-style-type: none"> ・ヨガ ・筋トレとストレッチ
リハビリ	<ul style="list-style-type: none"> ・森林浴

一番楽しかったこと

レスパイト	<ul style="list-style-type: none"> ・ウォーキング・ヨガ ・子牛のミルク体験 ・カラオケ ・よく笑ったこと
リハビリ	<ul style="list-style-type: none"> ・森林浴 ・庭園の散歩

自由意見

レスパイト	<ul style="list-style-type: none"> ・ストレスがなくなった ・運動で脳活性につなげたい ・継続したい ・家にこもらず外出して屋外で過ごしたい
リハビリ	<ul style="list-style-type: none"> ・個人ではできないので誘って欲しい ・身体を動かすことで前向きになった ・温泉と美味しいものが良かった

5. まとめと考察

本事業は新たな観光戦略として、レスパイト、リハビリテーションの健康課題に焦点をあて、ケアツーリズムの商品開発と基盤づくりを目的として各地での研修会とモニターツアーを行った。

北海道は、国内の人気観光地の一つであり、国内外から多くの観光客を集めている。2024年のデータによると訪日外国人の宿泊者数ランキングでは東京、京都、大阪に次ぐイ4位である(8,321千人)⁵⁾。また、北海道観光を選択する理由は、一般的には豊富な海産物、自然や景色、ラーメンをはじめとする食文化、北海道ならではの広大な景観などである。

ところが、観光への関心は高まる一方、コロナ禍以降、世界的な健康への関心の高まりや、企業における健康経営の取り組み拡大、高齢化による介護や看護分野の拡大などは、健康に関して、従来の医療機関や専門機関だけの課題解決が難しくなっている。Global Wellness economy 2023⁴⁾の報告にあるように、世界のウェルネス経済は、健

康に関する分野の成長率は顕著で、IT関連と製薬分野のマーケット(予算)よりも多いとの試算である。

したがって、これからの観光戦略においては、多種多様な取組が必要とされており、その中において本事業はレスパイト・リハビリを対象としたケアツーリズムの検証は他にない先進事例であった。

将来的な健康課題・観光課題の解決の一つに、今回のようなケアツーリズムは役立つと思われ、先行してのこれらの取り組みは、道内はもとより国内外の見本にもなりえると考えられる。

本事業の研修会は、新たな事業としてそれぞれの事業者のヒントになりえたと思われる。また、モニターツアーでは、多業種多職種連携の必要性とレスパイトやリハビリテーションの該当者の課題や健康への関心度などが調査によって明確になり、ツアープログラム開発の参考とすることができた。

なお、本事業でのエビデンスデータは、各地でのヘルスツーリズム認証や商品化に活用できると考えられ、事業の入口(研修会やエビデンス検証)と出口(商品化とヘルスツーリズム認証)が明確となった。よって、今後は、送り手側と受けて側、また、その仲介事業の体制づくりによりケアツーリズムのマーケット拡大が期待でき、今後も継続した事業の展開が必要であると思われた。

謝辞

本事業は、公益社団法人 北海道観光機構 令和7年度リハビリ・レスパイト・ケアツーリズム推進事業として開催され、事業の企画者である北海道観光機構様、研修会の講師の皆様、モニターツアーにご協力いただいた皆様、事業の取りまとめを行っていただいた JTB 北海道事業部様はじめ関係者の皆様に心から感謝申し上げます。

参考文献

1. 北海道観光推進戦略(国土交通省北海道運輸局令和6年6月)
3. 健康経営の推進について(経済産業省 商務・サービスグループ ヘルスケア産業課令和6年3月)
3. 厚生労働省宿泊型新保健指導(スマート・ライフ・ステイ)

4. Global Wellness economy 2023

5. 日本の観光統計データ (JNTO)